

気象キャスターが解説!  
天気のみかた

気象キャスター  
ネットワーク

連載  
第20回

桜を愛でながら  
防災を考える



しろいしかわづつみひとめせんぼんざくら  
白石川堤一目千本桜(宮城県)

### ①川に桜並木が多いわけ

まもなく花見のシーズンがやってきます。私はさくらの開花予想を計算しておりテレビ番組の天気コーナーで発表しているため、その予想が当たるかどうかソワソワする季節ではありますが…どの名所へ訪れようか花見の季節の到来が本当に楽しみです。各都道府県に数多の名所が存在しますが、川の堤防に桜並木が多く存在することを、みなさんはお気づきでしょうか。なぜ川に桜の名所が多いのか。それは、昔の人々が川に桜を植えたから。堤防に桜を植えると、春になり満開の桜を目当てに多くの客が訪れ、堤防は踏み固められて強度が増します。春を満喫することが防災に役立つ、昔の人の知恵に尊敬の念を抱きます。



背割堤の桜(京都府) 桜の季節は多くの花見客で賑わう

関西で最も有名な名所のひとつが、背割堤(京都府八幡市)の桜です。ここは淀川水系の桂川と宇治川、木津川の三川合流地点で、明治以降に大工事を経て築かれた堤防です。かつて3つの川が直接合流していたところを、各河川の間で1 km以上の堤防を設けることで川の流れを平行にし、合流をスムーズにさせることで、出水時の氾濫リスクが軽減されます。工事後に宇治川と木津川を隔てる堤防(背割堤)に桜約240本が植えられ、今では毎年春に10万人が訪れます。

### ②氾濫が相次いだ淀川の歴史

大阪湾に注ぐ淀川は、大阪府や京都府など関西地区を流れる一級河川です。大小の支川は965と日本一を誇り、琵琶湖や、京都・嵐山を流れる桂川も淀川水系。川に沿って交通網が整備され、都市を形成させるなど、淀川水系が関西の経済・文化を育んでいます。しかし、かつての淀川は大阪平野を縦横無尽に流れ、大昔から氾濫を繰り返す“暴れ川”でした。約1600年前の古墳時代、仁徳天皇によって淀川に茨田堤が築造された歴史が、日本書紀にまとめられています。淀川は氾濫のたび治水工事がなされ整備されたものの、1885年(明治18年)に大雨によって氾濫。大阪府全世帯数の約20%にあたる約71,000戸が浸水する甚大な被害が発生しました。この未曾有の大被害をきっかけに、それまで田畑だった土地(地図中の黄色の領域)が掘削され新たな放水路である新淀川(現在の守口市付近から河口までの区間)が誕生。下流部だけでなく、中・上流部の氾濫を防ぐため①で紹介した三川合流地点の背割堤など、明治から昭和初期にかけて流域各地で大規模な治水工事が



国土交通省近畿地方整備局 淀川河川事務所HPより引用

完工されました。(淀川の歴史については淀川河川事務所HPで詳しく見ることができます)

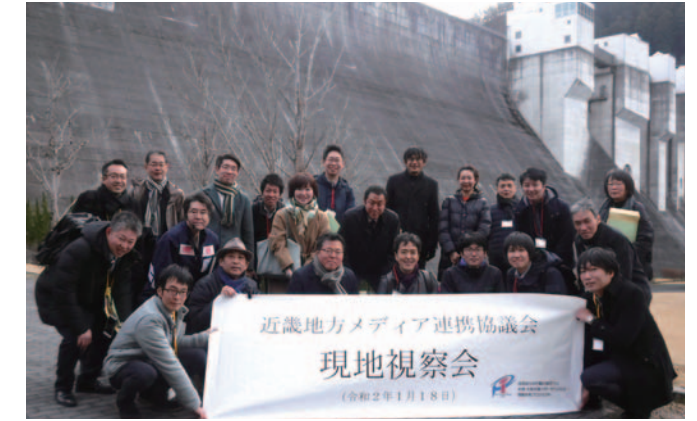
いまでは、大阪府内を高潮や浸水から守るための毛馬排水機場や、桂川の上流に水資源機構が管理する日吉ダムが造られるなど、大規模な洪水を防ぐための施設が淀川水系上流から下流に完備されています。広域で大雨になった場合、容積の大きい琵琶湖の水門(瀬田川洗堰)を閉め、下流の水位が下がってから琵琶湖の水を放流するなど、下流へ流れる水量のバランスを考えながら、淀川水系の各施設が“ワンチーム”となって流量を調整するオペレーションがされています。



毛馬排水機場内の様子  
最大6基のポンプが稼働すれば毎秒330トン(25mプールが2秒でいっぱいになるほど!)の排水能力を誇る

### ③災害相次ぐ今、花見でできること

淀川水系は“ワンチーム”で守られているとはいえ、2013年台風18号の大雨で桂川が氾濫し、流域の亀岡や京都・嵐山で浸水被害が発生しました(上流の日吉ダムによる防災操作がなければ、さらに被害が深刻になっていた可能性も報告されています)。2018年は7月豪



近畿地方メディア連携協議会 現地視察会  
(2020年1月18日 日吉ダムにて撮影)  
淀川水系の治水施設を見学させて頂きました

雨、2019年は台風19号により全国で多くの河川の氾濫・決壊が発生しました。全国各水系において治水施設が造られ、流量を調整するオペレーションがなされていても、想定を上回る大雨になれば、洪水被害を完全に防ぐことはできなくなります。地球温暖化や気候変動が関係して、将来的に大雨の頻度が増え、強い勢力で上陸する台風の割合が増える可能性も指摘されます。より強固な堤防を造るなど治水施設の整備は必要かもしれませんが、何より大切なのは「自分の身は自分で守る」住民ひとり一人の防災意識の向上だと考えます。

①で紹介した背割堤は2018年台風21号の暴風によって、ほとんどの木に枝折れや倒木の被害が出ました。しかし、住民や樹木医など多くの人々の手によって2019年春には美しい桜並木が復活、いまま開花に向けて蕾がどんどん膨らんでいるところです。災害が相次ぐ今だからこそ、災害に負けない桜の美しさを楽しむのは、いかがでしょうか。そして花見をしながら、河川の歴史を学んだり、“あの水門はどんな役割があるのだろうか?”と川にある施設について考えたり。今年の春は、桜を愛でながら防災を考えるのは、いかがでしょうか。

ひろせ しゅん  
広瀬 駿

Profile

気象予報士・防災士。  
愛媛県出身。  
大阪・毎日放送テレビ「ちんぷいぷい」  
「ミント!」  
「サタデープラス」に出演中。  
横浜国立大学大学院では台風を研究。  
趣味はミュージカル・写真撮影・フィギュアスケート観戦。

